

工事の進捗状況

H29.11末現在



- 標高13.0mの築堤の完成延長は、L=8.7km (約5割) (H29.11.末現在)
- 平成30年5月には、さらにL=1.0km、合計L=9.7kmが完成する予定です。



平成29年に、舞阪1工区、篠原5工区、五島1工区、及び五島2工区の4つの工区で、高さ13mの整備が竣工しました。

- 現在施工中の延長は、L=6.3km (約4割) (H29.11.末現在)
- 平成31年度の完成を目指し、各工区で工事を切れ目なく継続しています。

工事の進捗状況

■ 舞阪工区



今切口側から順次工事を推進中

■ 篠原工区



現在、既存の海岸堤防高(約T.P.9.0m) 近くまでCSGが完了

■ 五島工区



CSG打設に向け準備中

■ 中田島工区



97名の共有名義の民地を避け、北側に出来るだけ寄せた位置で砂丘内を施工



中田島砂丘の景観に配慮し、CSGを砂で覆う景観対策



浜松南高校と協働で砂丘の環境調査を実施するなど、自然環境対策も実施

舞阪工区で確認された廃棄物

【廃棄物の埋設状態】

- ・ 砂に廃棄物が2割程度混入した状態
- ・ 延長約450m、幅約30m、地表から1～2mの深さに厚さ2m程度の範囲

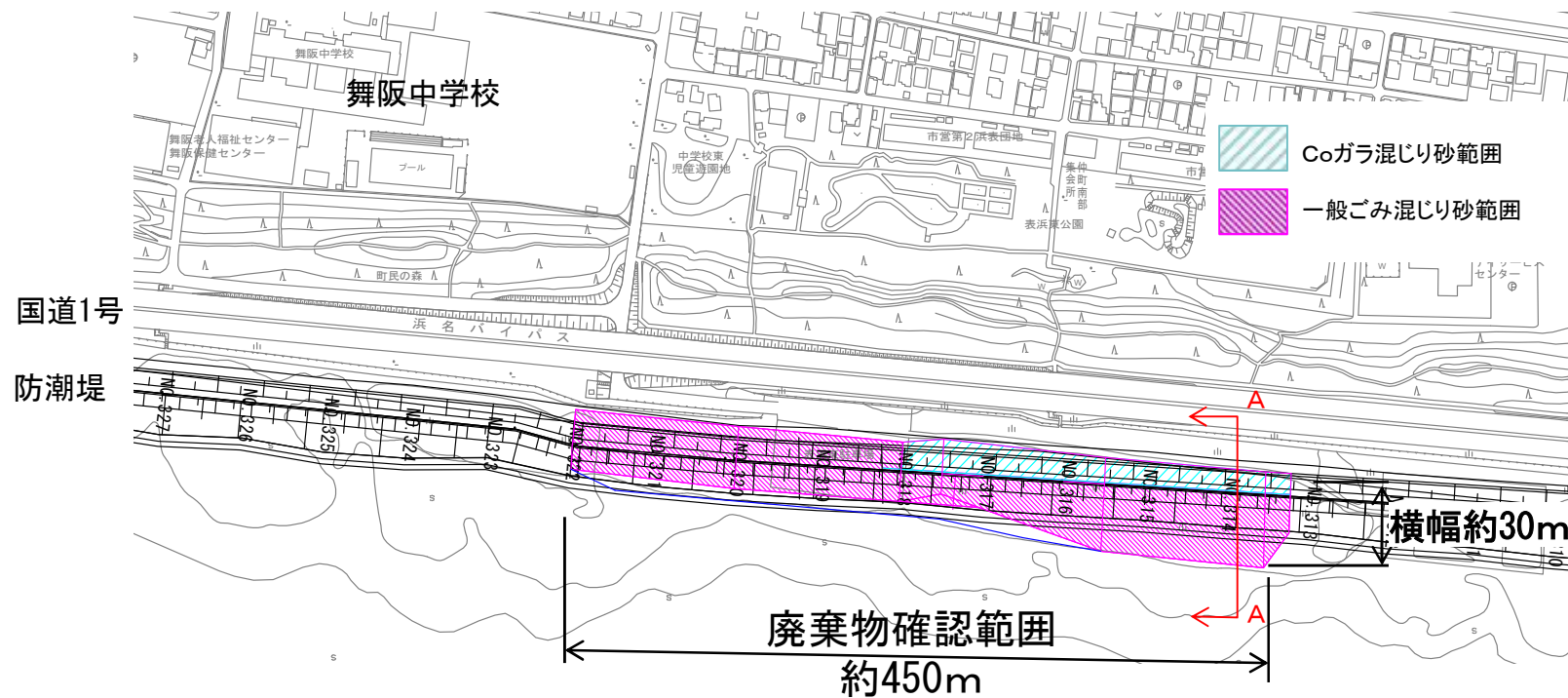
【廃棄物の種類】

- ・ 食品容器等のビニール・プラスチック類（昭和47年製造の印字も確認された）
- ・ 解体されたコンクリート塊
- ・ これまでのところ、危険性が疑われる廃棄物は確認されていない

【廃棄物の量】

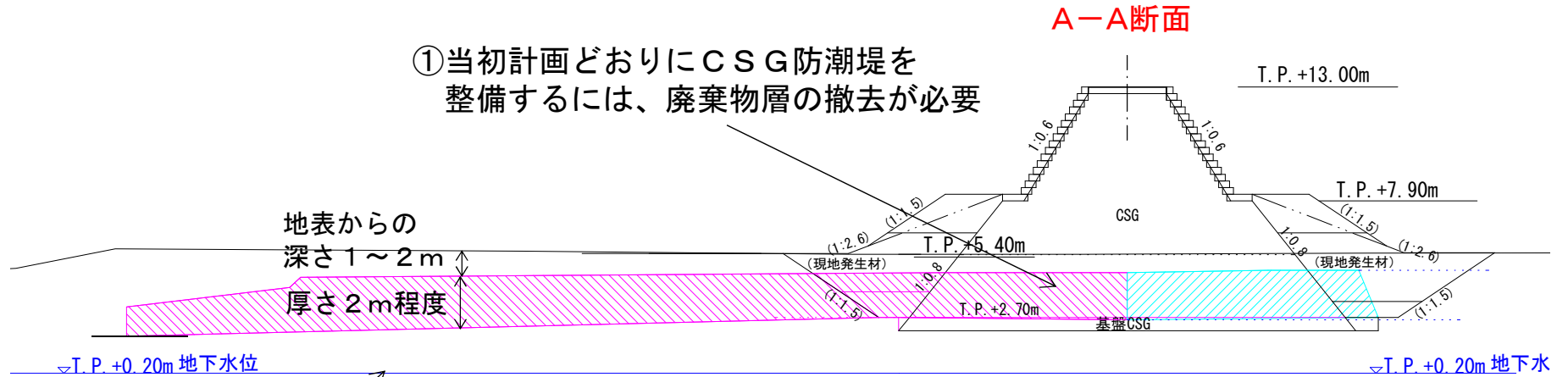
- ・ 廃棄物混じりの砂の量は約2万m³、このうち廃棄物は約4千m³と推定

平面図



舞阪工区で確認された廃棄物

標準横断面図



②ゴミ埋設範囲は地下水面より高い位置



試掘により掘り出した廃棄物混じりの砂(うち廃棄物は2割程度)



掘り出したコンクリート殻

廃棄物区間の対策検討

・ 工事費の増大や完成工期の遅れを避け、かつ、環境面や法的に問題がない対策として、**コンクリートで被覆した盛土構造の「土堤」に構造を変更することを検討**している。

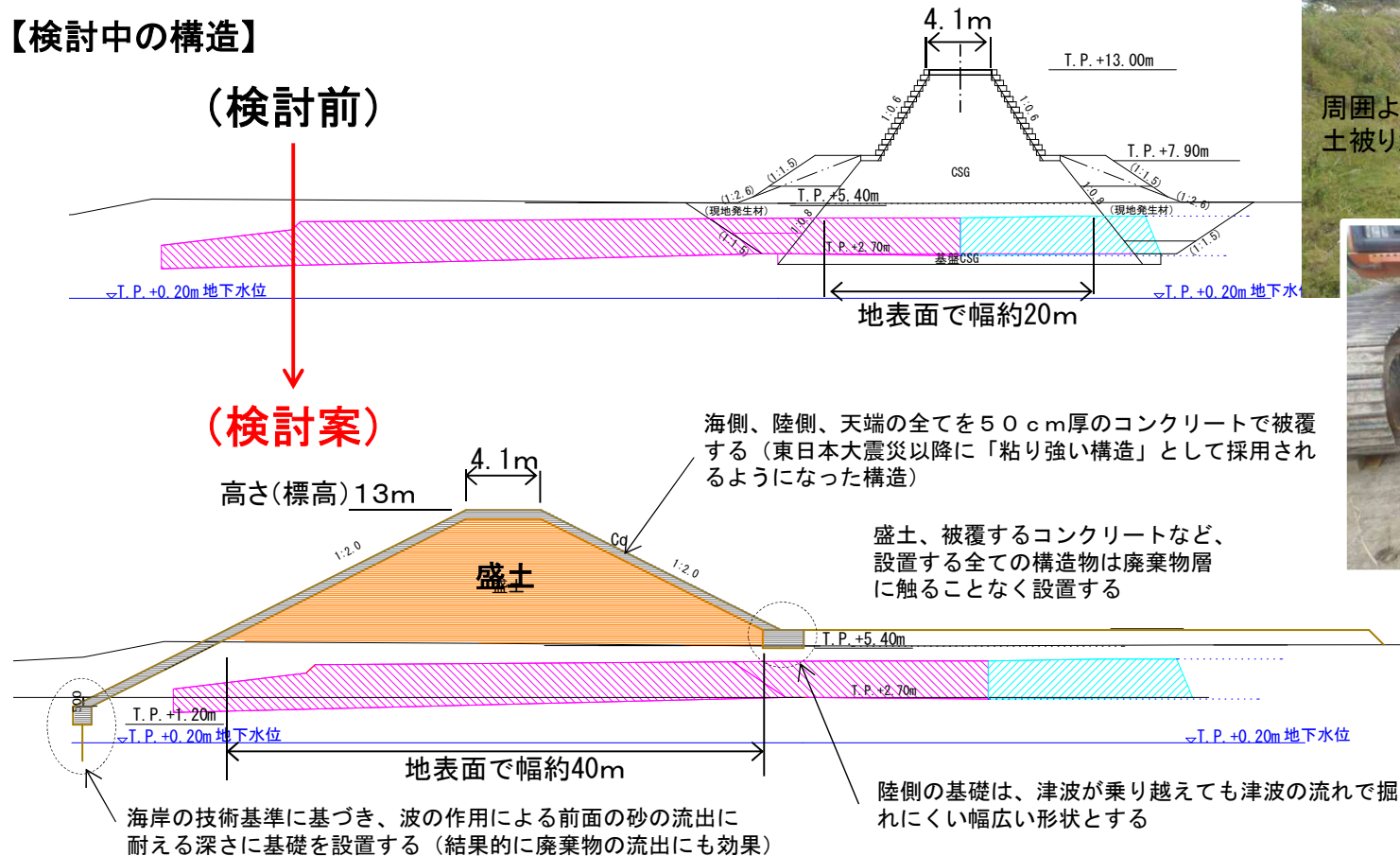
【コンクリート被覆の「土堤」の概要】

- ① 廃棄物層に触ることなく構造物を配置
- ② 防潮堤の築造により、結果的に廃棄物を封じ込めることができ廃棄物を拡散させない。
- ③ 防潮堤の基礎となる地盤は、現地の試験（平板載荷試験）により十分な強度があることを確認。
- ④ 従来のCSG構造に対して、追加費用は生じない見込み。

○平板載荷試験

- ・ 重機の重さを利用し、実際の地盤に荷重をかけて地盤強度を確認
- ・ 廃棄物を含む層の強度を確認するため、廃棄物層の土被りが薄い箇所で試験を実施。

【検討中の構造】



今後の進め方

- ・平成31年度完成を目指し、現在施工中の箇所を進めるとともに、未着手の4箇所ですり着手していく。
- ・舞阪工区の設計変更については、引き続き、詳細な構造や施工計画等について検討し、早急に決定していく。

